

6年 国語科研究授業のまとめ（9月27日）

1 単元名及び単元の目標

海のいのち（7/9 本時）

- ◎ 物語が自分に最も強く語りかけてきたことは何かを考
えることができる。

2 本研究授業の提案について

物語が語りかけていることについて伝え合って考えを広め
たり深めたりし、自分に最も強く語りかけてきたことを考
えるための手だてとして、以下の二つを提案した。

(1) 一つ目の手だてとして、話し合う視点を精選し、「広げたり
深めたりすること」を教師が明確に示すようにした。教材
研究をする際に、本時で話し合うことを自分が物語から受け
取ったメッセージの「根拠」に絞り込んだ。そして、授業の
説明場面では「今日の授業では、メッセージを考えた根拠を
丁寧に聞き合って、自分の物語への理解を広げたり、深めたり
することが大切です。風切る翼の例で言うと…」と既習の物語文を例に示ながら、本時
で話し合う視点を具体的に理解できるように工夫した。

(2) 二つ目の手だてとして、話し合いの際に活用できる言葉を具体的に示した（資料1）。前
時や他教科で見られた互いの意見を引き出し合う言葉や姿を記録しておいた。本時の説明
で示すことで、「考えを広めたり深めたり」する姿を具体的にイメージできるようにした。
上記の二つの手だてを講じることで次のようなやりとりが各グループで見られた。

I 児：「私が受け取ったメッセージは『命を守る』です。そう考えたのは太一がクエにも
りを打たなかったからです。」

K 児：「もりを打たなかったのはどうしてだと思う？」

H 児：「クエをおとうだと思ったから？」

I 児：「う～ん、そう思うだけではなく、本当にそう見えたのかもしれないね。」

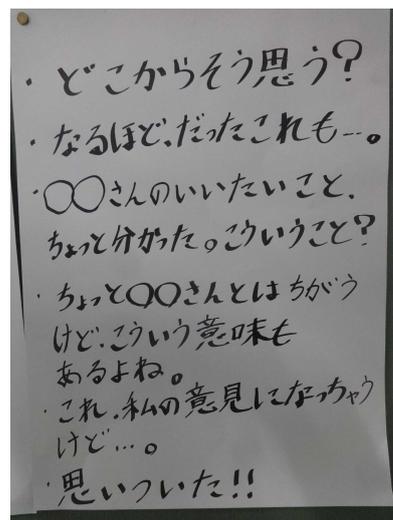
そして、このやりとりの後、I 児は「本当に父に見えた30% そう思うようにした7
0%」というメモを自分の根拠として残した。このように本時では、意見交換によって協
働的に物語への理解を広げたり深めたりすることができたと考えられる。

3 本研究授業の授業技術課題について

グループ学習における話し合いの内容を的確に把握し、教師が広げることで、互いの学び
の成果を共有することを技術課題として授業を行った。グループの話し合いを促進させるよ
うな言葉掛けはできたが、各グループの話し合いの内容を把握するのは難しかった。話し
合いの成果物を残し、それをギャラリーウォークするなど、グループ学習における共有の方法
を今後工夫していきたい。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は物語文の研究授業を行った。どちらの授業でも、人物関係図を使って、教材文
を振り返りながら話し合うことができるようにした。児童が話し合うためには、個人で考
える材料をしっかりと持った上で話し合いに臨むことが大切だということが分かった。その
上で協働的に学び合うためには、教材研究の段階で「何を」「どのように」伝え合うのか
を教師が的確に判断して、最適な方法を選択することが大切だと学んだ。国語に関わらず、
他教科においても、教材研究に基づいた適切な学びの場の設定を考えていきたい。



（資料1）話し合いを促す言葉と姿の掲示